

# 光れ！そえひっ子



平成 20 年 11 月 15 日発行

連絡先: 電話 73-2312 FAX 73-2313 有線 2301 HPアドレス <http://www.school.umic.jp/soehi/>

京都には、千年もの間崩れることのなかった石垣があり、それは、形も大きさもちがった石が組み合わさって作られているのです。

なかよし月間（人権同和教育月間）校長講話から

校長先生が見せてくださった右の写真は、京都市東本願寺の向いにある涉成園（しょうせいえん）の「高石垣」と呼ばれるものだそうです。はるか平安時代に組まれたこの石垣は、多様な形、大きさの石を組み合わせてできています。

この石垣をたとえにして、校長先生は、全校児童に、次のように呼びかけられました

「クラスも、この石垣と同じではないでしょうか。皆さんのクラスにも、話しの好きな人、静かな人、歌の好きな人、運動の好きな人・・・いろいろな性格の人がいます。一人ひとりが違うから、楽しいクラスになるのだとおもいます。今月はなかよし月間です。自分と違う友だちのよいところを見つけられるとよいですね。」



子ども達が「にこにこ笑顔で」生きていくことができる「あいさつ」めざして・・・

## あいさつについて 二学期後半挨拶の取り組み

「すぐに伝えよう「はい」の返事！」「自分からあいさつ！大きな声であいさつ！」という目標に向け、二学期前半に取り組んできました。その成果と課題をもとに、二学期後半

傍陽小 二学期後半のあいさつ目標

**相手に伝えよう！気持ちのいいあいさつ！**

半(11,12月)は、右のような目標に向かって取り組んでいます。今までの「すぐに」「大きな」といった、どちらかという、あいさつの「形」の向上に取り組んできたこれまでと比べ、「気持ちのいい」という「心」に焦点をあてた取り組みです。子ども達に「あいさつをする心」を育てていきたいと思っています。

「みんなで育てよう真田っ子を」アンケートでも、多くの子ども達が、「あいさつが大事だなあ」と思うわけについて、「あいさつをすると、気持ちがいい」と回答しています。代表的な声をいくつか紹介します。

「めんどくさいと思うこともあるけれど挨拶すると必ず返ってくるので、また挨拶をしたいと思う。」 「大きな声で友達が挨拶をしてくれるから。」 「知らない人とでも挨拶を交わすといい気持ちができる。挨拶することで親しくなれる。」 「無意識にしているからよくわからないが、気持ちがいすっきりする。」 「あいさつをすると気持ちが良くなるし、相手もいい気持ちになるから大切。」 「地域の人にあいさつをしていると向こうもちゃんとあいさつを返してくれてうれしい。」 「自分の心もすっきりするし、言われた人も明るくなる。」 「朝、友だちにしてもらおうと気持ちが良い。」 「自分があいさつして、笑顔を返してもらおうと気持ちが良い。」 「言われるとすごく気持ちいいから、自分からやりたい。」 「あいさつは、相手に言っても言われても気持ちよくなります。朝は特に気持ちがすっきりするから。」

子ども達が「わくわく夢を持つ」ことのできる、よりよい授業めざして・・・

## 「イメージ化」のための工夫

学力向上の取組 (10/29 授業公開と授業研究会・・・写真右)

(11/10 真田地区学習指導研究会での研修)

昭和48年に始められたこの研修は、真田町が上田市と合併してからも続いています。「真田地域の教職員が一堂に会し、授業を参観して、子ども達の具体的な学習の様子から、よりよい指導のあり方などについて、研究会をもって話し合いました。



子ども達が「こつこつ光る汗を流す」ことのできる「清掃」めざして・・・

## 清掃教室を実施しました

11月6,7,12,13,14日の5日間、学年ごとに清掃教室を実施しました。講師には、長寿会の女性役員の方においでいただき、子どもの掃除の様子を見ていただき、雑巾やほうきの扱いから、掃除の極意まで、約一時間の「清掃教室」で、子ども達の発達段階に応じて、大変熱心に教えていただきました。バケツの水に雑巾を丸めたままつけて絞っている子どもの姿に、「雑巾はよく揉み出してから絞る」という基本から、「掃除はきれいにするためにやるものだから、きれいになったか目で確かめて」「動くものは動かして」など、丁寧な教え方に、子ども達も熱心に学んでいました。



清掃活動の改善のため、当初職員の間では「清掃方法のマニュアルを作ったらどうか」という意見もあったのですが、今回の清掃教室でつくづく分かったことは、マニュアルを作るよりも「傍陽には、お掃除の達人が、大勢いるのだ。」ということ、そして、「そのお掃除の達人であるお年寄りの方から、直接教えていただいた方がよい。」ということです。また、ふれあい伝承広場で一緒だった役員の方に教えていただいたある子は、清掃後に、学校を案内しているなど、楽しく触れ合っている様子でした。この

ような機会に地域の方と自然な形で触れ合うことも、子ども達にとって、意義深いことだと思います。

この清掃教室については、今後も、できるだけ続けて実施していく方向で検討していく予定です。地域の「お掃除の達人」の皆さんのご協力、よろしくお願いします。

## 特色ある教育活動：一学期の様子と二学期の予定

連載最終回は、小学校の裏にある電気窯の「さくら窯」についてです。

「さくら窯」は、真田町の時代に、北校舎改築の折に学校施設として造っていただいたもので、電気窯のため、操作が簡単で、利用しやすい窯です。

ただ、これまで、あまり有効に活用できていなかったのですが、5,6年生が体験する「茶の湯教室」での「せっかくの機会だから、自分たちの作った茶碗でお茶を点てたい」という声から、だんだんと、さくら窯を活用した陶芸学習がさかんになってきています。

「図画工作」の授業では、これまでに、「葉っぱのお皿」(1年)、器作り(4年)、茶会用のお茶碗(5年)、縄文土器、植木鉢(6年)を「さくら窯」を利用して制作してきました。また、陶芸民芸クラブや職員研修でも利用しています。今年は、釉薬だけでなく、絵付けにも挑戦しました。

さらに、去る8日に行われたPTA研修会でも、陶芸講師として地域の先生を招いて、さまざまな作品づくりに取り組みました。



自分たちが作ったお茶碗でお茶を点てて味わった6年「秋の茶会」(写真左)



菅平中の美術の先生に講師として来ていただいた陶芸民芸クラブ(写真右)